敦賀駅交流施設及び敦賀駅前広場指定管理者候補者選定委員会の選定結果報告書

敦賀駅交流施設及び敦賀駅前広場指定管理者について、敦賀駅交流施設及び敦賀駅前広場指定管理者候補者選定委員会は、申請者から提出された事業計画書、申請者への質疑応答等により、選定委員が管理運営、経費の削減等の項目について評価を行い、次のとおり指定管理者候補者の適格者を選定しましたので、ここに選定結果を報告します。

１　選定団体名

株式会社エコシステム

２　指定期間

令和９年４月１日から令和１４年３月３１日まで

３　申請団体数

１団体

４　申請者の資格等についての適合状況の審査

申請者の資格及び欠格事項（団体であること、国税及び地方税を滞納していないこと等）については、申請書に添付された証明書類との照合等により、いずれも適合していることを確認した。

５　事業計画の審査

⑴　事業計画の選定基準は、当該施設の条例及び規則に定める指定の基準とした。

⑵　条例及び規則に定める指定の基準をもとに選定基準を定め、それぞれの項目に配点をし、１委員１団体当たり１０００点満点の評価とした。各委員の評価書の得点数を合計したものの平均点が６００点以上である場合、申請者を適格者とした。

６　選定委員会委員

氏　　名	職　　名　　等
井　上　武　史	東洋大学経済学部総合政策学科　教授
木　野　仁　彦	公認会計士
田　畑　裕　司	中小企業診断士
河　藤　正　樹	敦賀駅前商店街振興組合　理事長
池　田　裕太郎	株式会社港都つるが観光協会　事業本部長
本　多　研　二	西日本旅客鉄道株式会社敦賀駅　駅長
飯　田　正　人	敦賀市まちづくり観光部　政策幹

7　選定の経過

第１回選定委員会 ・指定管理者制度、対象施設の概要説明 ・募集要項・仕様書（案）の説明、決定 ・選定・評価方法（案）の説明、決定	令和８年８月２１日
候補者の申請受付期間	令和８年８月２８日から 令和８年１０月７日まで
第２回選定委員会 ・申請者のプレゼンテーション及び質疑応答 ・採点及び選定	令和８年１０月１９日

8　選定基準及び評価点

選定基準	配点	申請者の評価点
		株式会社エコシステム
1　管理運営		
⑴　利用者の平等な利用が確保されているか	75	62.86
ア　施設の管理運営を希望する理由は適切か イ　民間ノウハウを生かした安定した管理運営、高いサービスができるか		
⑵　施設の効用が最大限に発揮されているか	105	90.29
ア　設置目的に基づいた運営方針が示されているか イ　施設の利用促進策が有効かつ具体性があるか ウ　事業計画が施設の設置目的に基づいた計画となっているか		
⑶　敦賀市の市政推進に寄与するものであるか	100	79.28
ア　魅力あふれる地域のまちづくり等に寄与する工夫がされているか イ　再委託、物品の調達について、敦賀市内の企業等の積極的な活用（雇用を含む）に配慮がなされているか ウ　障害者の雇用など福祉施策への取組みに配慮がなされているか		
⑷　利用者へのサービス向上について	160	128.57
ア　サービス向上のための工夫が有効かつ具体的な内容となっているか イ　施設運営に対する利用者の声が反映される体制となっているか ウ　利用者の苦情に対して適切な対応がなされるか		

⑸　経営の規模及び能力について	260	212.72
ア　類似業務の実績があるか イ　職員を確実に確保し得る採用計画、管理を安定して行うことが可能な職員配置計画となっているか ウ　配置職員の勤務形態・勤務条件及び配置職員の人材育成・研修計画は適切か エ　非常事態に対応し得る防災・安全管理計画となっているか オ　個人情報の管理が適切か（プライバシーポリシーの制定） カ　会社の経営状況は適切か		
2　経費の削減		
⑹　施設の管理運営費用の縮減について	300	264.28
ア　安全な管理体制及び事業実施に対して、適切な収支となっているか イ　縮減の取組みがサービス低下に繋がらず、バランスが図られた事業内容となっているか ウ　敦賀市が支払う指定管理料が最小限に控えられているか エ　納付金の割合が最大限に提案されているか オ　新たな収入の創出等、経営安定化に向けた独自の取組みを行っているか		
合計	1,000	838.00

9　申請者の適格性及び講評

⑴　適格性

申請者は指定管理者として施設を管理運営する能力を十分有していると認められたため適格者として選定した。

⑵　講評

ア　利用状況に応じた柔軟な人員配置等を工夫するとともに、収益確保のための新たな取組みも検討し、物価上昇のなかで積極的に収支改善を図っていくこと。

イ　アンケート等で把握した意見を適切に整理・共有し、施設運営へ反映する仕組みを構築すること。

ウ　敦賀駅交流施設全体を敦賀の玄関口に相応しい、品位ある施設の雰囲気づくりに努めるとともに、中央部を広く、高さを活かせる空間として有効活用すること。